図書・歴史資料館の魅力、知っていますか

～カメリアステージ図書・歴史資料館に行ってみよう～

庁舎統合によって、平成29年7月8日に旧津屋崎庁舎から生まれ変わったカメリアステージ図書・歴史資料館。この施設は福津市複合文化センター共同企業体の皆さんが管理・運営しています。今回、広報ボランティアの真鍋さんが、施設の魅力について取材しました。皆さんも、魅力あふれる図書・歴史資料館に行ってみませんか。

▲カメリアステージ図書館の皆さん

「街角記者が行く」とは、広報ボランティアが読者の皆さんを代表して記者となり、街角に出て、市や関連団体の取り組みを取材するコーナーです。記者の目線で、時には歯に衣着せぬ物言いで関係者を取材し、皆さんの疑問に応えていきます。

街角記者　真鍋（まなべ）光（こう）

広報ボランティアだけではなく、郷育カレッジ運営委員としても活躍中。持ち前の行動力で、皆さんに地域の話題をお届けします。

子どもたちの心に寄り添う図書館

ある日、知人とカメリアステージ図書・歴史資料館の話をしていると、今まで知らなかったことを聞いたので、そのことについて調べてみることにしました。カメリアステージの正式名称は福津市複合文化センターで、図書・歴史資料館と市文化会館（カメリアホール）で構成されています。カメリアステージ図書・歴史資料館は1階が歴史資料館とカフェになっており、2階には図書館があります。

まずはカメリアステージ図書館に行ってみました。知人は「図書館のコンセプトが素晴らしい」と言います。この図書館では、子どもたちがざわついてしまっても、「子どもたちの心に寄り添っていきたい」との思いから、ともに温かく見守ってほしいと打ち出しているそうです。良いコンセプトだと思いますが、どのような意味が込められているのか、カメリアステージを統括する橋本泰浩さんと図書館長の森恵さんに話を聞きました。橋本さんは「図書館は騒いでいい場所ではありませんが、静かな場所だというのがルールではなく、マナーとして捉えてもらえれば」と語ります。

▲カメリアステージ図書・歴史資料館

確かに、図書館は厳粛な場所だと思っていましたが、周りの人に迷惑がかからないほどの話し声なら許容してもいいのかもしれません。むしろ友達同士や親子で話しながら読みたい本を探したり、感想を共有したりする方が本との距離が近くなると思います。橋本さんは一言も話してはいけないという雰囲気によって子どもたちや小さな子どもを連れた人が遠慮してしまう場所になってしまう方が残念だと語ります。マナーを大切にしながら、本ともっと親しくなって欲しい。コンセプトにはそんな意味が込められていました。

自分だけの使い方ができる図書館

また、森さんは「誰もが気兼ねなく利用できる図書館を目指しています」と語ります。そのための工夫のひとつが、利用者の目的に合わせた空間の整備です。館内には本棚だけではなく、親子で楽しめる親子読書室や静かに勉強できる学習室、教室や会議室として使用できる多目的室、1階には話をしながら飲食ができるカフェなどがあります。話を聞いてここは読書だけではなく、多様な使い方ができる新しいタイプの図書館ということに魅力を感じました。自分のやりたいことに応じて使い分けることで、日常にちょっとした彩りを加えられるとても良い場所だと思います。ぜひ皆さんにもお気に入りの使い方を見つけてほしいと思います。

市民と一緒に作っていく図書館

さらに、森さんは「市民の皆さんと一緒にこの図書館を作っていきたい」と語ります。そのために図書館と人をつなぐさまざまなイベントを企画、開催しているそうです。特に書店で図書館の本を参加者が選ぶ選書ツアーは本と人がつながる楽しい試みだと思いました。

▲図書館の魅力を話す橋本さん（中央）と森さん（右）

また、先進的な図書館の運営に関わってきた田中榮博さんをゼネラルマネージャーに迎え、市民と図書館を作り上げていく上でのアドバイスをもらっているそうです。これらの取り組みによって、市民の思いが図書館運営に取り入れられることで、より楽しい図書館に進化していくと期待できます。

取材を通してカメリアステージ図書館にはコンセプトや利用目的に応じたさまざまな空間など多彩な魅力があり、それを高めるための取り組みをしていることが分かりました。

街角記者が行く Vol.10
～広報ボランティアの取材報告～

カメリアステージ図書・歴史資料館の魅力に触れてほしい

福津の文化財から日本の歴史が分かる

次にカメリステージの歴史資料館に行きました。知人が言うには「歴史資料館の展示物はほとんどが実物」だそうです。博物館の展示物には複製が多いと思っていましたが、実物の展示が多いことはすごいことです。果たして本当なのか市文化財課の井浦一さんに真相を聞きました。

▲展示物について解説する井浦さん

「館内の展示物は3点だけ複製がありますが、他の展示物は全て市内から出土した実物です」と井浦さんは教えてくれました。市内からは縄文時代から江戸時代までのさまざまな文化財が出土していて、日本の歴史の流れを知ることができるそうです。歴史資料館は日本史に沿って出土品が展示されており、実物の資料を見ながら日本と福津市の歴史を同時に学べます。展示解説にも当時の日本の出来事と福津で起きていたことが一緒に書かれています。また、展示内容や解説は小中学校で学習する日本の歴史内容とつながっていて、郷土の歴史を身近に感じられるようになっています。市内の文化財だけで日本全体の歴史の流れがつかめるのは、とてもすごいことだと思いました。

悲願だった文化財の里帰り

歴史資料館の中には特別展示室という部屋があり、ここには世界文化遺産の新原・奴山古墳群などから出土した一級品の文化財が展示されています。この展示室は日光が入らない構造になっていて、空調設備を使い温度や湿度を一定に保っています。このようにすることで通常の管理では展示が難しい文化財を公開できるようになったそうです。歴史資料館ができるまでは、市にはこれらの文化財を保管できる場所がありませんでした。そのため、これらの資料は九州歴史資料館などの市外の施設で保管・展示されていたそうです。

「福津の重要な出土品を里帰りさせ、市民の皆さんに公開することは文化財担当者の悲願だった」と井浦さんは語ります。確かに本来地元にあるべき資料がないということは残念なことですし、それがやっとふるさとに戻り、身近な施設で見学できるようになったということは市民にとっても喜ばしいことだと思います。

貴重な文化財と市の歴史を多くの人に知ってほしい

歴史資料館には市内から出土した実物の文化財が数多く展示されていることが分かりました。井浦さんによると、これらの文化財をより楽しく見学できるように、来年に向けて1階受付のスタッフを展示ガイドとして養成しているそうです。

私は郷育カレッジの運営委員をしていますが、郷土の歴史を学ぶことは、ふるさとの素晴らしさを再認識することにつながると思います。ぜひ、市民の皆さんにも歴史資料館の展示を通して貴重な文化財と市の歴史について知ってほしいと思います。

古墳時代のよろい。九州歴史資料館から里帰りし、現在は歴史資料館の特別展示室で公開しています▶

市民にとってかけがえのない施設へ

カメリアステージ図書・歴史資料館について調べてみて、とても魅力的な施設だと感じました。しかし、取材を通して初めて知ることが多く、施設の良さが市民の皆さんにあまり知られていないのではないかと感じました。私はこの施設の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたいと思います。橋本さんや森さん、井浦さんにもこの課題を提起しましたが、3人とも市民の皆さんへの周知が十分でないと感じていると語ります。

この施設の素晴らしさを多くの市民で共有することで、図書・歴史資料館は私たちの暮らしを豊かにし、郷土への愛着を高める場所になると思います。今回取材した3人も今後のPRに力を入れていくとともに、市民の皆さんにとって誇れる施設になるよう努力していきたいと語ってくれました。皆さんもまずは図書・歴史資料館に行ってみてその魅力に触れてみてください。そしてこれからのますますの魅力向上に期待していこうではありませんか。

カメリアステージの自慢

カメリアステージ図書館の自慢を橋本さんと森さんに、歴史資料館の自慢を井浦さんに教えてもらいました。カメリアステージに立ち寄った時にはぜひ確かめてみてください。

図書館の自慢

市内の家具職人が作ったイスやソファ

市内にある3つの工房に作ってもらった、イスやソファを設置しています。どれもおしゃれで座り心地が良いので、ぜひお気に入りの作品を見つけてください。

季節を感じる展示物

カフェのスタッフ手作りの季節に応じた展示物を1階ロビーに設置しています。子ども向けの仮装もできます。次回の展示物は12月に設置します。

歴史資料館の自慢

福津に里帰りした文化財

歴史資料館が開館するまで、市外の施設で保管・展示されていた文化財です。武具やガラス製の装身具など、古墳時代の一級資料を展示しています。

沖ノ島と関連する文化財

沖ノ島で出土したものと同じ種類の市内出土品を展示しています。これらの文化財は古代豪族宗像氏と沖ノ島との関連が分かる重要な資料です。

カメリアステージ利用案内

開館時間　10：00～20：00
休館日　毎週火曜日、毎月最終水曜日、12月28日～1月4日
※祝日の場合はその翌日。資料の整理などで休館になる場合もあります
問い合わせ　カメリアステージ図書・歴史資料館☎72・1207
※カメリアステージ図書館の多目的室の利用についてはカメリアホール（☎52・3321）までお問い合せください

街角記者が行く Vol.10
～広報ボランティアの取材報告～